

## 第7期第6回豊中市文化芸術振興審議会

日 時 令和2年(2020年)2月19日(水) 午前10時~11時30分  
会 場 豊中市役所 第一庁舎 4階 第1会議室  
委 員 橋爪(会長)、安藤、大梶、高木、永田、山下  
欠席: 藤野、上田、原 ※敬称略  
事務局 長坂、志水、栗田、西岡、本山、加藤、原田、川南(豊中市)  
江藤、飯塚(地域計画建築研究所)  
傍聴者 2名

[開会]

事務局○(資料1-1、1-2、1-3に基づいて、前回の振返りと議事録の確定について説明)

### 1. (仮称)豊中市文化芸術推進基本計画の策定について

事務局○(資料2 (仮称)豊中市文化芸術推進基本計画(素案)に基づいて説明)

会 長○計画の位置づけについては、しっかり整理されている。

○P.10の図はまだ固まっていないと思うが、文章と分離するとわからなくなるため、めざすべき姿が何を示すのかなども記載してほしい。

事務局○図を見ればプランの概要がほぼわかるように修正する。

会 長○重点プロジェクトについては具体性がまだないので、最終段階ではもう少し必要だ。

事務局○令和3年度からこの計画に基づいて事業を立ち上げていくことになるが、それに相応するようなものは入れたいと考えている。

事務局○重点プロジェクトの考え方としては、プログラムは5つの柱を立てており、それと別にプロジェクトを掲げると関係性がわかりづらくなるため、基本的には5つのプログラムに基づいて事業をやっていくが、その際にこの重点プロジェクトの視点を意識して進めるという構成の方がわかりやすいと考えている。整理はするが、特に重点プロジェクトに関わるものは再掲という形になるかもしれない。

会 長○プロジェクトと施策というのは、概念として整理し、あるプロジェクトの中で複数の施策が組み合わさっている場合もある。子どもへの施策や南部地域への施策を複数合わせることでプロジェクトとするという考えもある。1つの大きな施策がプロジェクトの場合もある。

事務局○既存プロジェクトを束ねる形での効果も必要であり、いくつかの事業が連なる。当然、新しく打ち出す目玉も必要だろう。

委 員○人材の育成とは、具体的にどのようなことをするのか。

事務局○現在回答できる事業としては、P.13にある既存事業で、中学生舞台芸術体験事業ホールでオーケストラや、指定管理者が行っている事業だが、小学校へのアウトリーチ事業、レジデントアーティストというマネジメントができる人材の育成などを考えている。

事務局○子どもに対する事業は、直接的にアーティスト等として育成するイメージではなく、文化芸術に触れることから始めるというようなものである。指定管理者によるレジデントアーティストの育成などは直接的なイメージで、講座や活動の仕組みを作ることで、アーティストやスタッフを育成するものになる。考え方としては主にこの2パターンになる。

委員○伝統芸能館ができた時に人材育成事業をやっていたが、最終的に残ったのは照明の方だけだった。そのような状態になっているため気になった。

事務局○そこは課題と考えている。スタッフの育成については以前事業を行ったが、なかなか講座終了後の活躍の場を用意しづらい。伝統芸能館で言えば、伝統芸能館まつりを年1回行っており、その時にスタッフとして参加していただいているが、それ以外の事業や貸館事業では、スタッフに対して完璧を求められる。講座の受講者はプロではなくボランティアであり、求められる技量と提供できる技量との差があり、ミスがあった場合の責任の所在を考えると、上手く発展させることができなかつたという経緯がある。まずはそのあたりの整理が必要であると考えている。

委員○京都造形芸術大学にある春秋座という劇場を、学生たちがどう見ているかという調査を行った。芸術大学だが舞台芸術を鑑賞している学生は2割程度で、6割はほとんど行っていない。その要因を過去に遡ると、子どもの頃に見ていた学生は今も見ている割合が高い。学校で鑑賞した経験は全員あるが、それがその後につながっておらず、かえって舞台芸術を敬遠するような学生もいる。子どもへのプログラムの中身を作っていくことが重要で、「鑑賞させた」という証拠づくりだけでは、その後につながっていないことがはっきりわかってきた。学校教育の中で集団で会場へ連れていくだけでは、その後文化芸術に親しむ人間にならない。もうひとつわかったことは、今も見ている学生は親と一緒にいった人が多く、家庭環境がその後の文化芸術への親しみ度を左右しており、文化資本の差が開いていく傾向が見える。行かない人たちは行かないコミュニティを増やし、行く人はどんどん行く。その格差がかなり大きい。

○今回、庄内など南部地域に重点を置いた事業を行うが、豊中市の意識は高く、そのプログラムを考え、かつ全国の見本や教科書になるようなものを作っていくぐらいの気持ちでやってもいいのではないか。そのためには、事前と事後の調査や評価を詳細にやらなければならない。ただの証拠づくりでは、お金を使ってみんな一生懸命にやっているのに、効果が上がらないことになってしまう。中身はすごくいいと思うので、評価体制や成果をどのように計測し、次の事業にどう回すかが必要ではないか。

○文化行政推進会議は行政の中でのものか。文化以外のメンバーも入るのか。

事務局○庁内会議であり、文化関係以外の部長もメンバーに入る。

委員○この審議会と文化行政推進会議がどのように連携するものかを、もう少し見えるようにしてほしい。私たちが審議しても、文化行政推進会議で決まっているようなことがあると残念だ。役割分担やどういう意見の交換が2つの会議の中で動くかが気になる。

会長○文化行政推進会議とはどのようなものか、説明してほしい。

事務局○文化行政推進会議と文化行政連絡会議という庁内会議がある。文化行政推進会議は各部長級が対象で、その下の連絡会議は各セクションの課長級にお願いしている。役割としては、例えば現行のプランの進行管理について、毎年、この審議会への諮問、答申をしているが、その間に連絡会議等を開き、福祉や教育分野など、他セクションとの連携などについて検討している。今回の基本計画については、事務局案ができた段階で庁内会議にかけるが、例えば、もう少し福祉や教育の視点を加えたほうがいいのではないかと、などの議論を行い、計画策定や進行管理などを行っている。

委員○重点プロジェクトと5つのプログラムとの関係性を考えた方がよい。プロジェクトというなら具体的なものを想定して考えていくのか、そうでなければプログラムの中に具体策を書くようにし、プロジェクトには方針やアイデアをまとめて書くようにしてもいい。

○次代を担う子どもたちの育成はぜひ進めてほしいが、P.13のプログラムの中身として、ある程度具体的なプログラム要素をイメージして書いたものと、お題目的なものもあり、オーケストラの演奏会をやれば子どもの育成になると考えられてしまうことは良くない。ヨーロッパでは、学校に地域連携コーディネータがいて、文化プログラムを実施している。今のプログラムの中には抜けていることがある。コーディネータをこれから作ると言っているが、それでは遅いのではないかと。豊中市と市民に分かれているが、マネジメント等ができるコーディネータを、市が小中学校に置くことを前提としたプログラムを考えてもいいのではないかと。オーケストラ演奏会やアウトリーチはどこの市町村もやっているが、1年に1回聴かせるだけでは意味がない。もっと継続的に提供するプログラムとする必要がある。7年間の基本計画だが、7年間の工程や効果・成果も書ければなお良い。人材育成や次代を担う子どもたちをアウトプットとしたいため、指標は数値でなく、お題目的なものでも構わないが、その有無で結果は違ってくる。育成は時間のかかることであり、一年間にコンサートをたくさん聴かせればいいわけでもない。継続的に長い時間をかけてやっていくという考え方が書かれていると良い。

○地域課題の解決に文化は有効だと思うが、芸術そのものの力を通じて子どもを育成することとは異なる。子どもを育成するというと、いい芸術を提供するようなイメージだが、芸術は人間の暗い部分なども併せ持つものであり、そのようなものも含めて、社会の両面性や複雑なところを体験的にわからせる力がある。それは必ずしも地域課題の解決とは関係のないことであり、芸術そのものの無尽蔵な力への信頼は、この様な計画の中にはあるべきではないかと。それを意識して書かれた方がよい。前回よりは素直になったと感じている。

会長○最終的には工程表は作るのか。

事務局○評価の中で工程表を作ることをイメージしていたが、今のご意見では、それは当然あるとしても、計画の中でどのような形で見せることができるか考えたい。

委員○7年間というのは、小学生の子どもたちが中学・高校・大学生になる期間であり、その子が7年間を過ごす中でどのように成長するのか、ある種のモデルを作って成果を確認しても良い。今年の大学の卒業生が論文で賞を取ったが、長野で子ども

向け文化プログラムに小学生から高校生まで通っており、芸術大学に進学して教育ジャンルに進んだ。子どもがどのように進んでいくのか、そのモデルを書けば評価もやり易くなる。「文化芸術に積極的である」、「大変親しんでいる」などの書き方になるかもしれないが、「豊かな感性と創造性を育む」ではどう評価すべきかわからない。子どもの成長に合わせた段階があればいい。

事務局○学生の6割が鑑賞にほとんど行かないという話をされたが、学校で無理やり行かされたものは効果がなく、家庭環境や親の意識が重要ということは、前回もご意見としていただき、事務局でも認識している。まだ企画段階だが、来年度に乳幼児と親に向けた音楽鑑賞や、子どもアートフェスティバルも子どもが対象ではあるが、親子で来ていただき、子どもが楽しむ姿を見せることで、親にも気付いていただく仕組みを取り入れられたらと考えている。

委員○レジデントアーティストのオーディションが来月あるが、アーティストを育てることが目的か。

事務局○地域に対してのアクションができる方に応募をしていただくことも目的だが、基本的にはアーティスト自身を育てることが目的である。

委員○二人の子どもを持っており、他の地域の方々との情報交換も行っているが、情報を届けることの難しさが話題になる。関心のない親が多い。実験的に地域で2000枚のチラシを撒いたことがあるが、レスポンスがあったのは3件で、そのうちの2件は75歳以上、1件は40歳代の主婦の方だった。子どもにまで間口を広げているが、子どもの参加はあまりない。今の子どもたちは本当に忙しく、一緒に歌おうと言っても響かない。音楽や芸術の力を信じており、継続してやっていたが、2000枚撒いて3名の方しか来られなかった。会場費用等、自分で支払い続けることは難しく、収支が取れずに継続できなくなった。そこにコーディネータのような方が必要であり、継続できなければ、子どもたちはすぐに普通の生活に戻ってしまう。冷めた子どもも多い。最近、オーケストラでフォーレの曲を聴き、とても良かったが、それを聴いた子どもたちはどう感じたのかと思う。親や学校が連れて行かなければ行けないようなものではなく、子どもひとりでも行けるような地域があればいい。ただ、それは個人では続けられない。新たな場を生み出したいが、難しい現実がある。

委員○芸術大学の学生でも、デザインや漫画は好きだが、文化芸術は敷居が高いと感じている。

委員○専門の学生であっても、繰り返しその面白さを説明していなければわかってもらえない。あまり批判しても仕方がなく、長い目で見てほしい。

委員○調査の中でわかってきたことだが、ダイレクトに劇場や音楽と若者を結びつけることは難しいが、その間に誘ってくれる友達が必要である。先生の言うことは聞かないが、友達が面白いと思っている、あるいは友達が舞台に関わっていれば行くという答えが多い。好きな公演があれば行くという答えの次に多いのが、友達に関わっていれば行くである。この関係者を増やすことや、ボランティア的な発想かもしれないが、当事者に近い鑑賞者のように、グラデーションで広がっていく感じがある。文化芸術と鑑賞者という2つで出来上がっているわけではなく、その間が豊か

であれば橋渡しができる。マネージャーなどに委ねる前の段階の方々ではないかと感じる。

事務局○友達が舞台上上がって見に行こうと思うという考えは、ワークショップだけでなく、舞台上がるような機会が重要だというご意見を、前回もいただいたが、それに繋がってくる。例えば、指定管理事業だが、バレエのワークショップを数回行った後に、実際にアクアホールの舞台上がり演じるようなこともやっている。対象は子どもだが、子どもが出ていると家族や友達が見に来るので広がっていく。大人向けでは、市民大学で練習し最後に発表するため、出演者の周りの方々が見に来る。そのような取組みは今後も続けていきたい。

会長○文化振興に関して、公教育がどのように関わるのかをしっかりと整理してほしい。かつては文化振興策は各自治体に委ねられ、多くは私事だった。だが法律が整備され、文化振興に関して、各行政がやるべきことを上位概念として出した。ただ、最近のことであり、かつて私事だった文化芸術に触れるということが公のことに変わってきている中で、この計画を作っていることを大前提として理解すべきだ。各家庭でなすべきことと、行政がどのようにコミットするのかということと話しているが、どこまでが各個人の責任であり、行政がどこまでできるのかということ整理しきれていない中で、議論してしまうことがある。範囲を明確にしなければ、全体像が見えなくなる。

○また、文化振興策が目的なのか手段なのかも整理すべきだ。よく目的化してしまい、予算が付いたのでやらなければならないと、事業をすることが使命になってしまうが、本来はそうではなく、この施策によってこのように改善したいなど、達成したいことがあるはずであり、それをしっかり意識し、ぶれないでほしい。

○文化芸術の振興というのは、市民にとっての誇りを醸成することである。豊中市は大阪府の中で初めて文化芸術創造都市になったが、市民の方々が、豊中市は他の町と違って文化的に進んでいて、益々魅力的な都市になる、という想いを持っているだろうか。市民の方々のプライドとして、文化芸術に優れた素晴らしい都市だということを共有すべきであり、全分野横断でいろんなアイデアを出しながら施策を打ってほしい。宝塚市などはわかりやすく、誰に聞いても歌劇があると言える。地方都市など小さな町では、全国的に有名な祭りなどがある場合は、学校でもその練習をしており、わが町の誇れる文化はこれだと言える。豊中市のような大きな町になると、様々な地区にいろいろなものがあり、豊中の文化的な財産は何かと聞かれてもひとつでは言い切れない。それが豊中の力であるが、語り方を作る必要はある。そのひとつのきっかけは、新しい施設ができたことであり、子どもたちがあの晴れ舞台に立つということは、市民の方々と共有できることだ。子どもだけでなく、親にとっても誇りになるものであり、そのような事業ができればいい。豊中市民として、文化芸術で優れていると評価されたことを、誰もが誇らしげに語れる状況になることが、ひとつの達成目標になる。

○またそれは憧れのはずであり、他市から引越す際に、豊中は教育と文化に魅力があると思われるようにしたい。まだ言語化されておらず、概念として何をもって文化的なのかがわからず、戦前からの郊外住宅地であることを理由として語る方も

ある。東京からの単身赴任者も含め、豊中市は住みやすさのランキングで上位に来ているが、住みやすさの概念の中に文化芸術も入っているはずだ。

○重点プロジェクトの「次代を担う子どもへの取組み」というタイトルでは言葉が足りない。子どもたちがアーティストを目指すのか、文化芸術に触れあうことで、豊かな人間性を育むのかなど、どちらに重きを置くのか、両方あるため、施策の在り方を検討してほしい。

委員○音楽大学の大学生でも音楽会に行かない。年間 200 回程度の演奏会を行うが、大学主催の大きな演奏会になると、出席カードを配って必須にしなければ集まらず、出席カードを出しただけで帰る。オーディションに受かり友達が出れば、そこだけ聴いて帰ってしまう。音楽科のある関西の 8 大学の集まりがあり、各学校の最も優秀な卒業生を集めて関西新人演奏会を行っている。昔はフェスティバルホールが一杯になったが、今は厚生年金会館（現オリックス劇場）の 1000 人のホールでも入らなくなり、いずみホールの 700 人でも入らなくなった。出演者を集めてお客様を呼ぶように言うが、まったく興味がない。在学生を対象にアンサンブルの夕べというものをやったが、オペラハウスに 200 人も入らない。演奏を提供する側がこんな状態である。

○サウンドスクール事業でも、4 年間、学生を引率しているんな学校へ行ったが、ひどい学校では、先生が演奏中にマイクを持って静かにするように言うようなところもあった。学校へ行き、子どもたちに聴いてもらうのが申し訳ないような状況だった。感想ももらうが、先生が誘導したようなものしか返ってこない。学生は子どもが喜ぶ曲よりも、自分たちの本物の音を聴かせることで、子どもに印象を残そうとしている。今は楽器資料館におり、学生は全員 1 年の時に来ているはずだが、来た覚えがないと答える学生が多い。教職課程の教育実習に行く時になって、やっと資料館に気づくような状況だ。オーケストラも一生懸命やっておられるが、「静かに聴いてやれ」というレベルになっている。業界では子ども向けの演奏会を「ジャリコン」と呼んでおり、供給側も所詮「ジャリコン」という意識があるのではないか。

委員○そういうお話を聞くと、豊中オリジナル勉強会をしてもいいかと思ってしまう。

会長○それは大学がすべきことであり、行政がすべきことではない。教育側の問題だ。

委員○大学生世代には、割を食っているという意識があり、シニアは年金もあり寿命を全うできるだろうが、自分たちは損をしているという恨みのようなものを強く感じている。子どもたちも大事だが、若者世代まで含めてどのように育成するのか、行政としても検討したほうが良い。小学校までは手厚いが、中学・高校・大学になると社会は冷たい、怖いと感じる学生も多い。

委員○豊中の文化芸術連盟を預かっているが、現実はその通りだ。現在 12 団体あり、雅楽などの分野もある。毎年 9 月に文化芸術祭を開催し、平均的に 600~800 人入る。最後の 30 分程度で中学生の吹奏楽をやってもらうが、4 時頃になると 200~300 人増え満員になる。雅楽などは生で見た豊中市民は少ないのではないか。吹奏楽も雅楽もセッティングに時間がかかり、その穴埋めが難しい。若手で実行委員会を作り、少し変えてみたいと動いている。文化芸術センターができて、初回だけはかな

りの人が入ったが、舞台でなく会場を見に来た人が半分程度いたと聞いてがっかりした。

会 長○他に何か意見はあるか。

○様々なお意見をいただいた。ここで一旦切らせていただき、次年度にまた改めて引き続きご意見をいただきたい。確認の意味も含め、今後の進め方について説明をお願いしたい。

事務局○今後のスケジュールについての資料で、太字にしているところが議論している作業になるが、次回の審議会は次年度の5月に予定しており、それまでに作業を進める必要がある。この間はメール等を活用して進めたい。本日いただいたご意見を元に修正した計画案を、メール等で送らせていただくので、その修正案に対して再度ご意見をいただきたい。そして、そのご意見を反映した最終提案を送らせていただくので、同様にご意見をいただきたい。このようなやり取りを2回程度行った上で、次回の審議会を迎えたい。

会 長○5月までの間にメールなどで2回やり取りさせていただき、最終案まで作成したということだ。答申は8月の予定だ。

## 2. (仮称) 子どもアートフェスティバルについて

事務局○(資料3 (仮称) 子どもアートフェスティバルについてに基づいて説明)

会 長○ご質問、ご意見、関係大学としての考え方など、何かあるか。

委 員○京都造形芸術大学はアートプロデュース学科で担当させていただくが、「Nadegata Instant Party」というチームの一員である山城大督さんというアーティストが、4月から当大学の専任講師になるため、彼の持ちネタをさせていただく。小学校の卒業文集をビデオで作るような内容になる。

○いい機会をいただいたと思っている。他大学と一緒にできるのは非常にありがたい。音楽や通信など、専門に学んでいるところが異なるため、これを機会に連携していきたい。

○大学名が4月から京都芸術大学に変わるため、チラシ等には注意してほしい。

事務局○補足説明だが、このイベントは前期の審議会の中でご提案いただいた、(仮称) 豊中アートフェスティバルをベースに考えたもので、前期の審議会の中で議論いただいた基金を使用した事業だ。また、1回で終わるものではなく、隔年、または3年に1回程度で少し大規模なものをというご意見もいただいたため、現時点では3年に1回程度、市内の様々な場所で開催したいと考えており、今回は南部で小学校の再編に伴う校舎移転があったため、そこを会場として選定した。

委 員○ピアノペインティングという言葉にショックを受けた。日本では床の間や仏壇にペインティングはしないと思うが、文化的な捉え方としてどうかと感じた。

会 長○プロデューサーのような人は立てないのか。

事務局○全体としてはいない。それぞれのコンテンツ毎には企画者がいる。

会 長○ディレクションを行う方々がチームとなり、いかに全体を盛り上げるかを考えるべきだ。自分の担当のみ頑張り、他とのプログラム上の連携が見えず、来られる方も1時間だけしかいない、という状態になりがちだ。祭りなので、クロージングの

時にみんなで絵を描くなど、感動して拍手が起きたり涙が流れるようなクロージングをご両親にも体験していただき、我が小学校の建替えのタイミングでこんな経験ができて良かったと思ってもらえるようなものになると良い。エンディングが盛り上がるフェスティバルはいい。最後に参加者全員がろうそくを並べたり、全員が壁にメッセージを書くなど、各コンテンツはそれぞれに成立しているとしても、最後には関わった方々全員の思い出に残るような何かをしていただけるといい。また、それぞれのコンテンツでできたものが、最後に合わさって何か作品になるなどあればベストだ。建替えの校舎を自由に使える機会はなかなかないため、最大限活かしてほしい。

委員○目標来場者数は3000人ということだが、宣伝の規模やチラシ枚数等は決まっているのか。

事務局○予定では、チラシは各小学校に対し、全校生徒数の枚数として、2万部程度を配布することを考えており、他に1万5千部程度、合わせて3万5千部程度作る予定で、他の公共施設等への配架や、文化芸術センターのイベントで配布する。その他に、阪急電鉄のフリーペーパーTOKK(トック)に1ページの広告を掲載する予定で、沿線市外の方に対してはTOKKやWeb媒体、市内向けは主にチラシの2点で考えている。

会長○早めに告知しなければ、連休なので他の予定が入ってしまう。また、コロナウイルスの問題もあるため、イベントに関してはナーバスな状態であり、そのあたりも考慮するべきだ。

委員○子どもを何歳以下にするかという問題はあるが、3000人のうちの子どもの割合はどの程度と考えているか。

事務局○親子連れで来ていただくことをイメージしており、家族構成にもよるが、2人なら半分程度、3人ならもう少し下回る程度を想定している。

会長○他になければ、この件は終了する。

### 3. その他

事務局○先ほど基本計画の意見のやり取りについて説明したが、本日の会議録についても、後日メールで送らせていただくので確認していただきたい。

○市や指定管理者が主催する事業のチラシを配布している。

○審議会の次回とその次の日程調整をさせていただきたい。日程調整表を配布しているので、本日、予定がわかるようであれば、出席いただけないところに×印を入れ、帰りに預けていただきたい。できれば明日までにお知らせいただきたい。

○赤いファイル(当日配布の参考資料)は次回以降も使用するため、机の上に置いて帰っていただきたい。

[閉会]

(以上)